

沖縄祖国復帰の日。5月15日は、

沖縄に感謝と祝意を捧げましょう。 —沖縄県・祖国復帰39周年

昭和47年5月15日、昭和27年以降もアメリカ合衆国の占領下に置かれていた沖縄県は、沖縄県民の熱烈な運動によって、祖国復帰を果たしました。

先の大戦で沖縄は、本土を守るために3ヶ月間もの戦いを続け、本土が主権回復した昭和27年から20年後の昭和47年に祖国復帰しました。5月15日は、このような沖縄県民の苦難の歩みに心から感謝し、復帰を共に祝いする日です。

しかしこの日の意味が正しく伝えられていないばかりか、歪められています。5月15日、沖縄県では、郷土・沖縄を心から愛する方々が立ち上がり、尖閣諸島と沖縄を守る決意を込めて「祖国復帰39周年記念大会」を開催します。

沖縄県からの訴え「尖閣諸島・沖縄を守る決意を固める日に」

「近年、東シナ海や沖縄近海において、中国の海軍、海洋調査船、漁業監視船、漁船団ほかによるあからさまな領海侵犯等の示威行動が増え続けています。先島の漁民は豊かな漁場を奪われ、大変厳しい状況に追い込まれています。

沖縄県民は、無防備論と決別し、国防に対する責任を共有する国民として目覚めなければなりません。

本年5月15日、沖縄県は祖国復帰より39周年を迎えます。しかし残念な事にこの記念日が、米軍基地を押し付けられた

『屈辱の日』として歪められ、反基地運動に利用される日となっています。祖国と郷土を愛する私達は、5月15日『復帰記念日』を祝賀するとともに、尖閣諸島の主権と郷土・沖縄を中国の侵略行為から守り抜く決意を表明する日にしたい。全国の皆様方にご支援ご協力を心よりお願い申し上げます。」

(「沖縄県祖国復帰39周年記念大会」趣意書より)

領海を守るための署名運動にご協力を!

平成20年外務省調査によると、アセアン諸国が日本に対して望む貢献は、「東シナ海と南シナ海の平和を守って欲しい」というものでした。中国の軍備拡張に連動して、わが国に対する希望も増えています。尖閣での中国漁船衝突事件以後、わが国の対応を、アセアン諸国は自国の将来を重ねて注目しています。これら国々の期待に応え、わが国の主権を守るため、不法な領域侵犯を排除する警備体制の強化と関連法令の整備を求めて、国会請願署名運動を推進しています。署名運動にご協力いただきますようお願いいたします。

▲署名用紙は日本会議のホームページからもダウンロードできます。

5月14・15日は「尖閣を守れ!全国統一行動」を実施中です

～私たちは今、全国各地において尖閣諸島を守る街頭署名活動を推進しています～

日本会議中央本部 TEL03(3476)5611 FAX03(3476)5612 HP [日本会議](#) [検索](#)▼